

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中等 3		学校名	県立古河中等教育学校				課程	全日制			学校長名			久米 麻子			
教頭名	廣瀬 涼子			荒井 知巳				主幹教諭		江田 慶彦			事務（室）長名			飯田 一行		
教職員数	教諭	42	養護教諭	2	常勤講師	8	非常勤講師	15	実習教諭, 実習講師, 実習助手			1	事務職員	3	技術職員等	10	計	81
生徒数	学科			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科			54	66	60	60	60	58	56	56	58	57	54	56	342	353	18

2 目指す学校像

- 6 年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、生徒一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。
- 科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。
- 異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	○ 豊かな心(寛容の精神、謙虚さ、思いやり)と確かな学力を兼ね備えた次代のリーダーの育成 ○ 6 年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、生徒一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。 ○ 科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。 ○ 異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。
---------------------------------------	--

別紙様式 1 (中等)

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○Σ ソフィア・プロジェクトと各種教育活動とを連携させ、体験的・探究的な学習活動を展開し、科学的思考力や判断力、表現力を培う。 ○6年間の体系的なシラバス作成と学習システムを構築し、生徒一人一人が将来の夢や目標に向かって自主的・主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ○学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じて異年齢交流を行い、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成する。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○知的好奇心が豊かで、他者と協働して課題を探究しようという意欲のある児童 ○国際的な諸問題や医学に高い関心をもち、社会貢献への意識が高い児童 ○他者との違いを認め合い、お互いに尊重し合うことができる児童

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	○昨年度、「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合が 90.0%であり、学習活動の充実に努めている。 ○生徒一人一人の学習到達度に合わせた学習指導をさらに充実させる必要がある。	○授業形態の工夫や I C T を効果的に活用した、生徒の主体的・探究的な学習活動の継続 ○学習到達度（個）に応じた学習支援の充実
生徒指導 (生徒支援)	○基本的な生活習慣の育成や望ましい人間関係の確立を目指し、個に寄り添った生徒指導を実践している。 ○生徒の規範意識の向上と定着に継続的に取り組み、生徒自身が現状を分析し、課題を生み出していけるような指導が必要である。	○個に応じた生徒指導の望ましい在り方 ○マナーや規範意識の向上を目指した道徳的指導の充実。 ○教育相談体制の充実
進路指導 (進路支援)	○6年間のキャリア教育計画概要を基に、生徒の発達段階に応じた進路指導を実践している。 ○各種講演会や分析会等を通して自身を見つめ直す機会を設けているものの、高校入試がないため進路意識が低下する生徒も散見される。前期の段階から 20 年後・30 年後の自身の姿を考えたキャリア教育を推進する必要がある。	○学校行事や探究等の体験的活動と連携した体系的なキャリア教育の実践 ○多様なロールモデルに触れる機会の充実 ○客観的データに基づく、非認知能力を育む指導体制の整備 ○講演会や学内外での活動記録を活用した振り返りによる学びの深化

別紙様式 1 (中等)

特別活動	○学級活動の時間を中心とし、生徒一人一人にとって居場所や所属感のある学校生活を送るための指導を実践している。 ○学校行事や生徒会活動において、生徒が主体となった望ましい運営に向けて取り組んでいる。しかし、生徒の活動に対する教員の把握が不十分な場面が見られる。	○6年間を見通した縦と横のつながりを意識した自発的、自治的な活動を推進するための特別活動の在り方と実践 ○「目指す生徒の姿」を設定し、生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に認める多面的・総合的な評価の充実
働き方改革	○学校全体として超過勤務時間月平均 45 時間以内をおおむね実施することができている。一方で、超過勤務時間が増加している教員もあり、偏りが生じている。	○教育活動への効率化を図った校務分掌の再編や行事の精選等の実践 ○勤務時間・健康管理を意識した働き方改革の推進

5 中期的目標（教務）

○Σ ソフィア・プロジェクトと各種教育活動とを連携させ、体験的・探究的な学習活動を展開。科学的思考力や判断力、表現力を培う。 ○6年間の体系的な教育活動を通じて、生徒一人一人が将来の夢や目標に向かって自主的・主体的に学習に取り組む。 ○学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じて異年齢交流を行い、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成する。 ○教職員が自らの人間性や創造性を高めながら、効果的な教育活動が行える環境の醸成に努め、働き方改革の実現を目指す。
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
高い学力の育成	○“次代のリーダー”を育てる学校として、6年一貫の学びを考えていく。 ○教員ひとりひとりの授業形態の工夫により、生徒が主体的に学ぶ指導を展開する。 ○生徒を一人一人の学習到達度を把握し、個に応じたアドバイスや学習支援を行う。 ○教員相互で授業参観や研究協議を行い、授業改善に役立てる。 ○生徒による授業評価において、授業満足度の評価平均 3.5 以上を目標とする。
心の教育の充実	○いじめに対する理解を教員自身が深め、生徒を適切に指導・支援する。 ○常に生徒の 10 年後の将来像を思い描き、生徒にはレジリエンスの力を持たせる教育を行う。 ○いじめや不登校の支援が必要な生徒の把握に努める。対応には担任・主任・生徒指導部・スクールカウンセラーなどが組織的かつ有機的に対応し、すべての生徒が安心・安全な学校生活が送れるようにする。

別紙様式 1 （中等）

特色ある学校づくり	○ “社会は変えられる” という自信とスキルを身につける。そのために「共感」と「アクション」を大切にした探究活動をデザインする。 ○Σ ソフィア・プロジェクト（古河中等式探究活動）を計画的に実施する。 ※Σ アカデミア（弛まぬ学ぶ力・自ら学ぶ姿勢の育成）、 Σ コミュニケーション（発信力・論理力の育成）、 Σ サイエンス（科学的思考力の育成）、 課題研究（創造力・探究力の育成） ○生徒一人一人の目標実現に向けたキャリア教育を行う。
ワークライフバランスの充実	○風通しの良い職場環境づくりを推進し、教育活動の効率化を図る。 ○教職員が休暇等を取得しやすい環境をつくることで、各自がライフステージにあった働き方を実現する。